

ある雑誌で「幸運のペンダント」という広告を見た。結構な額の商品である。これを身につけると健康になり恋愛がうまくいくなど、良いことが次々に起こるらしい。

またこの商品を買うべき人として「体調の悪い人」「人間関係で悩んでいる人」などと、「だまされやすい人」が挙げられていた。人間、ここまで残酷になれるかという気持ちになったほどである。

しかし考えてみれば、なぜ人はこんな商品を買うのか。答えは簡単である。だまされたいのだ。だまされるとい言いがに語弊があれば、「自分で決めたくない」のだ。これは古いや風水に頼る人の精神についてもあてはまる。

玄関マットの色次第で金持ちになれるはずは絶対

# 時々 草々

越智 敏夫 (新潟国際情報大学教授)



対にない。なれるのなら世の中全員が金持ちになっっている。つまり風水が無根拠なのはみんなが知っている事実である。に

# 就活と「残酷」な占い

だ。つまり私たちはマットの色さえ自分で決めたくないのだろう。店で売られているというものは、嘘だと承知のうえで買っているということだ。

向き玄関なら茶色」と言ってもいい。このよ

おちとしお 1961年愛媛県生まれ。立教大学法学部卒。慶応大学大学院政治学博士課程修了。96年、新潟国際情報大学講師。2006年に教授。専門は現代政治理論。があるかなどを真面目に

うな遊び半分の占いなら罪も小さい。しかし重要なこと、たとえば恋愛や仕事などを占い師という他人の判断にまかせる人、真剣に考えるべきだろう。

確認すべきだ。就職について占ってもらおうくらいなら、自分の適性や本当にやりたいことについて真剣に考えるべきだろう。

もうすぐ大学3年生の就職活動が始まる。この不況下である。大学生以外にも就職活動で苦労する人々が多い。そういう人に対して「あなたと相性の良い業種を占いますよ」と雑誌やネットでささやきながら金を要求する者もいる。こうした残酷というより、ただの外道である。